



ルリーロ福岡通信

ラグビータウンプロジェクト推進係 75 - 3343



ルリーロ福岡で学生広報をしている久留米大学の小山りんです。今月号は、明治10年にうきは市で創業し148年の歴史を誇る鳥越製粉株式会社社長の鳥越徹さん（写真左）のインタビューをお届けします。同社は、地域貢献の一環として、ルリーロ福岡発足時からゴールドパートナー（※）

として応援しています。ルリーロ福岡の活躍がもたらす社内への好影響、そしてうきは市への熱い想いをうかがいました！

ーどんな事業を行なっていますか？

「当社は、『使う身になって作る』をモットーに、小麦粉やホットケーキミックス、唐揚げ粉、麦焼酎など、様々な穀物加工製品を製造販売しています。パンや麺などのオリジナル商品が消費者の皆さまの喜びへと繋がるように開発に取り組んでいます」

ールリーロ福岡との出会いのきっかけを教えてください

「2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表が史上初のベスト8に進出し、空前のラグビーブームが巻き起こりました。そんな中、当社の創業の地であるうきは市では“地域密着型”のラグビーチーム、ルリーロ福岡が発足しました。ルリーロ福岡には「地域に根付き、地域とスポーツの新しい共生の姿へと先鋭的に挑戦する」という理念があります。当社はこの理念に共感するとともに、協賛を通じて、長年にわたって当社を支えていただいている地域の皆さまに、少しでも恩返しができるのではないかと考えました。2022年4月のチーム発足時からゴールドパートナーとしてルリーロ福岡を応援することを通して、地域社会の活性化や地域経済への貢献に取り組んでいます」

ールリーロ福岡を応援して、社内の反響はありますか？

「ルリーロ福岡への協賛をきっかけに、当社の社員がラグビー観戦に行くようになりました。ラグビーやルリーロ福岡への関心が高まったことはもちろん、それらの話題をきっかけに社員同士の会話が増え、社内のコミュニケーションが活発になりました。社員一人ひとり

が、勝つことを最後まで諦めず走り続ける選手の姿に感動をもらい、ルリーロ福岡が勝利することの喜びを皆で共有できることで、社員の士気向上につながっています」

ーうきは市への想い

「昭和27年10月に当社の製粉工場と精麦工場が火災で焼失してしまい、廃業を考えるタイミングがありました。その時、吉井町の皆さまをはじめ、多くのうきは市の皆さまに多大なご支援とご協力をいただき、会社一丸となって再建に取り組みしました。その結果、わずか4か月後に精麦工場が、10か月後には製粉工場が再稼働を果たしました。存続の危機にあった当社を支えていただいた地域の方々に対する恩返しの気持ちを次世代に繋ぐため、ルリーロ福岡の応援を通して、うきは市全体の活性化に貢献していきたいと思っています」

鳥越製粉は現在、福岡市に本社を置きつつも、生産の主力は創業の地である吉井町に工場を置いており、株主総会も必ずうきは市で開催するという変わらぬ地元への熱い想いがあります。

「ルリーロ福岡は、地域とスポーツとの共生を目指すうきは市の先駆者的な存在だと思います。当社においても、先鋭的に挑戦するルリーロ福岡への応援を通して、地域社会の持続的な発展と成長をともに考えていきたいです」と語る鳥越社長。

ラグビーとうきは市の融合によって生まれる新たな活力が、地域にとって今後のさらなる発展へとつながることが期待されます！今月も最後までお読みいただきありがとうございます！

（※）ゴールドパートナー：ルリーロ福岡を財政面や事業面で支援する企業パートナー



選手が着用するユニフォームにはルリーロ福岡とゴールドパートナー契約を結ぶ企業のロゴなどが掲出されています

ルリーロ福岡の活動を知りたい方はこちら▶

